



C コマンド

この章では、C で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

cd

デバイス ファイル システムの現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [filesystem:] [//server/] directory
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	変更先ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

例

次に、現在のファイル システム上の現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd my-scripts
```

次に、別のファイル システム上の現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd volatile:
```

関連コマンド

コマンド	説明
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

clear cli history

コマンドの履歴をクリアするには、**clear cli history** コマンドを使用します。

clear cli history

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コマンドライン インターフェイス (CLI) で入力したコマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

例

次に、コマンドの履歴をクリアする例を示します。

```
switch# clear cli history
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cli history	コマンドの履歴を表示します。

clear cores

コア ファイルをクリアするには、**clear cores** コマンドを使用します。

clear cores

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コア ファイルに関する情報を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。

例

次に、コア ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear cores
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system cores	コア ファイル名を表示します。
system cores	コア ファイル名を設定します。

clear debug-logfile

デバッグ ログ ファイルの内容をクリアするには、**clear debug-logfile** コマンドを使用します。

clear debug-logfile *filename*

構文の説明	<i>filename</i>	クリアするデバッグ ログ ファイルの名前。
-------	-----------------	-----------------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、デバッグ ログ ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear debug-logfile syslogd_debugs
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグ ログ ファイルを設定します。
	debug logging	デバッグ ログ ファイルをイネーブルにします。
	show debug logfile	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

clear install failure-reason

ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアするには、**clear install failure-reason** コマンドを使用します。

clear install failure-reason

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアする例を示します。

```
switch# clear install failure-reason
```

関連コマンド

コマンド	説明
show install all	ソフトウェア インストールのステータス情報を表示します。

clear license

ライセンスをアンインストールするには、**clear license** コマンドを使用します。

clear license *filename*

構文の説明

<i>filename</i>	アンインストールするライセンス ファイルの名前。
-----------------	--------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、特定のライセンスをアンインストールする例を示します。

```
switch# clear license fm.lic
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license	ライセンス情報を表示します。

clear user

特定のユーザをログアウトさせるには、**clear user** コマンドを使用します。

clear user *username*

構文の説明

<i>username</i>	ログアウトさせるユーザの名前。
-----------------	-----------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、特定のユーザをログアウトさせる例を示します。

```
switch# clear user admin
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users	現在、スイッチにログインしているユーザを表示します。

cli var name

ターミナル セッションのコマンドライン インターフェイス (CLI) 変数を定義するには、**cli var name** コマンドを使用します。CLI 変数を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli var name *variable-name* *variable-text*

no cli var name *variable-name*

構文の説明

<i>variable-name</i>	変数の名前。名前は、最大 31 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>variable-text</i>	変数のテキスト。テキストは、最大 200 文字の長さの英数字で、スペースを含むことができます。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

次の構文を使用して CLI 変数を参照できます。

```
$(variable-name)
```

次のインスタンスに変数を使用できます。

- コマンド スクリプト
- ファイル名

変数の定義内で、別の変数を参照することはできません。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、TIMESTAMP という定義済みの変数を提供しており、これを使用して時刻を挿入できます。TIMESTAMP CLI 変数は、変更することも削除することもできません。

CLI 変数の定義は変更できません。変更する場合は、変数を削除した後に、新しい定義で再作成する必要があります。

例

次に、CLI 変数を定義する例を示します。

```
switch# cli var name testvar interface ethernet 1/3
```

次に、CLI 変数を参照する例を示します。

```
switch# show $(testvar)
```

次に、TIMESTAMP 変数を参照する例を示します。

```
switch# copy running-config > bootflash:run-config-$(TIMESTAMP).cnfg
```

次に、CLI 変数を削除する例を示します。

```
switch# cli no var name testvar
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>run-script</code>	コマンドスクリプトを実行します。
<code>show cli variables</code>	CLI 変数を表示します。

clock set

手動で Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのクロックを設定するには、**clock set** コマンドを使用します。

clock set *time day month year*

構文の説明

<i>time</i>	時刻。形式は、 <i>HH:MM:SS</i> です。
<i>day</i>	日。指定できる範囲は 1 ~ 31 です。
<i>month</i>	月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
<i>year</i>	年。有効な範囲は 2000 ~ 2030 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、NTP サーバなどの外部のクロック ソースとスイッチを同期できないときに使用します。

例

次に、手動でクロックを設定する例を示します。

```
switch# clock set 12:00:00 04 July 2008
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

clock summer-time

サマータイム（夏時間）オフセットを設定するには、**clock summer-time** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock summer-time *zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes*

no clock summer-time

構文の説明

<i>zone-name</i>	タイムゾーンの文字列。タイムゾーン文字列は 3 文字の文字列です。
<i>start-week</i>	サマータイム オフセットを開始する週。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>start-day</i>	サマータイム オフセットを開始する曜日。有効な値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday または Sunday です。
<i>start-month</i>	サマータイム オフセットを開始する月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
<i>start-time</i>	サマータイム オフセットを開始する時刻。形式は、 <i>HH:MM</i> です。
<i>end-week</i>	サマータイム オフセットを終了する週。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>end-day</i>	サマータイム オフセットを終了する曜日。有効な値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday または Sunday です。
<i>end-month</i>	サマータイム オフセットを終了する月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
<i>end-time</i>	サマータイム オフセットを終了する時刻。形式は、 <i>HH:MM</i> です。
<i>offset-minutes</i>	分単位でのクロックのオフセット。有効な範囲は 1 ~ 1440 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード
インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、サマータイムまたは夏時間のオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 5 Sunday November 02:00 60
```

次に、サマータイムをデフォルト オフセットに戻す例を示します。

```
switch(config)# no clock summer-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show clock</code>	クロックのサマータイム オフセット設定を表示します。

clock timezone

Coordinated Universal Time (UTC; 協定世界時) からのタイムゾーン オフセットを設定するには、**clock timezone** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *zone-name* *offset-hours* *offset-minutes*

no clock timezone

構文の説明

<i>zone-name</i>	ゾーン名。ゾーン名は、タイムゾーンの略語 (PST、EST など) である 3 文字の文字列です。
<i>offset-hours</i>	UTC からのオフセット時間数。有効な範囲は -23 ~ 23 です。
<i>offset-minutes</i>	UTC からのオフセット分数。有効な範囲は 0 ~ 59 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード
インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デバイスのクロックに UTC からのオフセットを設定するときに使用します。

例

次に、UTC からのタイムゾーンオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock timezone PST -8 0
```

次に、タイムゾーンオフセットをデフォルトに戻す例を示します。

```
switch(config)# no clock timezone
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

configure session

コンフィギュレーションセッションを作成または修正するには、**configure session** コマンドを使用します。

configure session *name*

構文の説明

<i>name</i>	セッションの名前。名前は、最大 63 文字の英数字で指定します。大文字と小文字は区別されます。
-------------	---

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンフィギュレーションセッションを作成する例を示します。

```
switch# configure session MySession  
switch(config-s)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show configuration session	コンフィギュレーションセッションに関する情報を表示します。

configure terminal

コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure terminal** コマンドを使用します。

configure terminal

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、コンフィギュレーション モードを開始するために使用します。このモードでのコマンドは、入力（Enter キー/キャリッジ リターンを使用）と同時に実行コンフィギュレーション ファイルに書き込まれます。

configure terminal コマンドを入力した後は、システム プロントが **switch#** から **switch(config)#** に変わり、スイッチがコンフィギュレーション モードであることを示します。コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** と入力するか、**Ctrl+Z** を押します。

変更した設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

例

次に、コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルとして保存します。
end	コンフィギュレーション セッションを終了して、EXEC モードに移行します。
exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーション モードへと移行します。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。

copy

コピー元からコピー先へとファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

copy *source-url destination-url*

構文の説明

<i>source-url</i>	コピーされる元のファイルまたはディレクトリの場所の URL（または変数）。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー元がローカルの場合とリモートの場合があります。 詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>destination-url</i>	コピーしたファイルまたはディレクトリのコピー先 URL（または変数）。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー先がローカルの場合とリモートの場合があります。 詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

コマンドデフォルト

コピー先のファイルのデフォルト名は、コピー元のファイル名です。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.0(2)N2(1)	このコマンドのサポートが外部 Universal Serial Bus (USB) フラッシュメモリ デバイスに導入されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、1 つの場所から別の場所へファイル（システム イメージまたはコンフィギュレーション ファイルなど）をコピーできます。コピー元ファイルとそのコピー先は、Cisco NX-OS ファイル システムの URL を使用して指定します。これにより、ローカルとリモートのどちらのファイルの場所でも指定できます。使用するファイル システム（ローカル メモリ ソースまたはリモート サーバなど）により、コマンドで使用する構文が決定されます。

すべての必要なコピー元およびコピー先 URL 情報や、使用するユーザ名は、コマンドラインに入力できます。または **copy** コマンドを入力すると、CLI から必要な情報の入力を求められます。

コピー プロセス全体は、ネットワーク条件やファイルのサイズに応じて数分間かかる場合があります。また、それぞれのプロトコルおよびネットワークによっても異なります。

ファイルシステムの URL プレフィックス キーワード（**bootflash** など）の後にはコロン（:）が必要です。

ftp:、**scp:**、**sftp:** および **tftp:** の URL 構文では、サーバは、IPv4 アドレスまたはホスト名のいずれかです。

コピー元およびコピー先 URL の形式

コピー元とコピー先の URL の形式は、ファイルまたはディレクトリの場所によって異なります。Cisco NX-OS ファイル システムの構文 (*filesystem:[/directory][/filename]*) に従ったディレクトリ名またはファイル名のコマンドライン インターフェイス (CLI) 変数を入力できます。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィックス キーワードのリストです。URL プレフィックスのキーワードを指定しない場合、スイッチは、現在のディレクトリ内のファイルを検索します。

表 1 は、書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。表 2 は、リモート ファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。表 3 は、書き込み不可のファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。

表 1 書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash:[/server/]	ブート フラッシュ メモリのコピー元またはコピー先の URL。server 引数の値は、 module-1 、 sup-1 、 sup-active または sup-local です。
volatile:[/server/]	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元またはコピー先の URL。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチのリブート時に消去されます。server 引数の値は、 module-1 、 sup-1 、 sup-active または sup-local です。

表 2 リモート ファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp:[/server]/[path]/filename
scp:	Secure Shell (SSH; セキュア シェル) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用してファイルのコピーを受け入れるネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 scp:[/username@server]/[path]/filename
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 sftp:[/username@server]/[path]/filename
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 tftp:[/server[:port]]/[path]/filename

表 3 特殊ファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
core:	コア ファイルのローカル メモリ。コア ファイルをコア ファイル システムからコピーできます。
debug:	デバッグ ファイルのローカル メモリ。コア ファイルをデバッグ ファイル システムからコピーできます。

表 3 特殊ファイル システムの URL プレフィックス キーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
log:	ログ ファイルのローカル メモリ。ログ ファイルをログ ファイル システムからコピーできます。
modflash:	mod ファイルの外部メモリ。mod ファイルを modflash ファイル システムからコピーできます。
system:	ローカル システム メモリ。実行コンフィギュレーションをシステム ファイル システムへ、またはシステム ファイル システムからコピーできます。システム ファイル システムの使用は、コマンドで <code>running-config</code> ファイルを参照するときは任意です。
usb1:	外部 USB フラッシュ メモリ デバイスのコピー元またはコピー先の URL。ブートフラッシュにキックスタート イメージとシステム イメージをコピーできます。 (注) これは、Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチだけに適用できます。
volatile:	ローカル揮発性メモリ。揮発性ファイル システムへ、または揮発性ファイル システムからファイルをコピーできます。揮発性メモリのファイルはすべて、物理デバイスがリロードすると失われます。

ここでは、次の操作に関する使用ガイドラインを示します。

- 「サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー」 (P.23)
- 「サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」 (P.23)
- 「サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」 (P.24)
- 「サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー」 (P.24)

サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー

イメージをサーバからローカルブートフラッシュ メモリにコピーするには、`copy source-url bootflash:` コマンド (たとえば、`copy tftp:source-url bootflash:`) を使用します。

サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

ネットワーク サーバから、デバイスの実行コンフィギュレーションにコンフィギュレーション ファイルをダウンロードするには、`copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url running-config` コマンドを使用します。設定は、コマンドを CLI に入力した場合と同様に、実行コンフィギュレーションに追加されます。その結果、コンフィギュレーション ファイルは、以前の実行コンフィギュレーションとダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルを組み合わせたものとなります。以前の実行コンフィギュレーションより、ダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルが優先して適用されます。

ホスト コンフィギュレーション ファイルまたはネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーできます。特定の 1 つのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むホスト コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、デフォルト値の `host` を使用します。ネットワーク上のすべてのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、`network` を入力します。

サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー
 コンフィギュレーション ファイルを、ネットワーク サーバからスイッチのスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするには、**copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url startup-config** コマンドを使用します。これらのコマンドにより、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルが、コピーしたコンフィギュレーション ファイルに置き換えられます。

サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー
 FTP、SCP、SFTP、または TFTP を使用するネットワーク サーバに現在のコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy running-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url** コマンドを使用します。ネットワーク サーバにスタートアップ コンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy startup-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url** コマンドを使用します。コピーしたコンフィギュレーション ファイルのコピーはバックアップとして使用できます。

例

次に、同じディレクトリ内にファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 file2
```

次に、別のディレクトリにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 my-scripts/file2
```

次に、別のファイル システムにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

次に、リモート サーバからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy scp://192.168.1.1/image-file.bin bootflash:image-file.bin
```

次に、ブートフラッシュにキックスタート イメージとシステム イメージをコピーする例を示します。

```
switch# copy usb1: bootflash:
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
move	ファイルを移動します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

copy running-config startup-config

現在のすべての設定情報をリブート後も使用可能になるよう、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

copy running-config startup-config

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更した設定を表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。



(注)

copy running-config startup-config コマンドを入力した後は、実行中の設定と起動時の設定が同じになります。

例

次に、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存する例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。
show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションファイルを表示します。

■ copy running-config startup-config